

## 横須賀局のエラー風景印

永吉 秀夫



上の写真の初日カバーはずいぶん昔に入手したのですが、押されている横須賀局の風景印の「ペリーが1853年7月14日に久里浜に上陸」という意味の英文に、スペルミスがあります。JULYと書くべきところがJURYとなっているという、いかにも日本人的なミスです。

特印ではなく風景印なので、長い期間にわたってこのような恥ずかしいものを使っていたと思ったら、そうではありませんでした。右の写真はその10年前の実郵便に押された風景印で、これにはスペルミスがありません。

そこで「風景印大百科」(鳴美)を調べたら、この図案の風景印は昭和26年4月20日に使用開始されたもので、

「36. 7. 15以降14, JuryとJuly 14の2種存在」と書かれていました。花シリーズ「やまゆり」の発行に際して、初日押印の郵頼が大量に届くのを予測して追加新調した風景印に、ミスが生じたのですね。月日の英文表示を月日の順(米国式)から日月の順(英国式)に改めた際に、間違いが起ったのでしょう。ただし風景印百科に載っている図版では、上記のように英文の先頭文字以外が小文字になっています。コンマの使い方も正しくありません。これは鳴美のミスでしょうか？



なおこの図案の風景印は、スペルミスの指摘があったためか、翌37年4月20日から新図案の英文なし印に改められました。その図案の風景印は、今でもそのまま使われているそうです。



## 1964年東京五輪で使われた競技別小型印

永吉 秀夫



前回の東京五輪に際しては、付加金つき切手を含めて多数の記念切手が発行されました。切手だけでなく、消印についてもさまざまなものが使用されましたが、その中で目を引くのが「競技別小型印」です。20の競技ごとに調達した特別図案の小型印が、その競技の開催期間中、開催地の郵便局で使用されました。

写真は「馬術」の小型印ですが、東京から離れた軽井沢で開催されたことが分かります。この小型印が変わっているのは、日付が開催期間の日付に固定されている点です。この例では「39.10.16-19」となっていて、馬術開催期間の10月16日から19日まで、日付の更新なしで使用されたことが分かります。一見、時刻表示が入っているのかと見誤りそうです。このような小型印は、他に1948年の「東京明るい通信展」で使用されたのを存じていますが、それ以外にもあるのでしょうか？

この記念カードでは大会の5円記念切手が貼られています。まあコストを最小に抑えるためにそうしたのでしょうが、せっかくの競技別の記念品です。前回の東京大会では、20競技を図案にした付加金つき切手が発行されていました。その中の対応する切手を貼ればよかったのにと感じてなりません。しかしこの当時、一部の付加金つき切手は高価だったので、そういうわけにはいかなかったのでしょうか。

来たるべき2020年大会の開催まで、1000日を切りました。前回は大会3年前の1961年から、付加金つき切手の発行が始まりました。今回はまだですが、先日発表された新年度の新切手発行計画によると、2019年3月に付加金つき切手の発行が予定されています。今後、前回以上に多数の記念切手や消印などが登場するのは確実です。さて、どのようにつきあいましょうか。